



## 海外稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。  
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

### 会長メッセージ

人望の厚い立派な前会長から、会の活性化とさらなる発展を託されて会長に就任し、約8年がたちました。トロント稲門会の創設以来、先輩方が築き上げてきたおよそ60年の歴史の重みを感じながら、会の運営に尽力してきました。  
私は日本企業のカナダ法人の立ち上げと経営に10年携わり、11年目に本社から帰任の要請を受けました。しかし、その頃には家族のみんながトロントにすっかり根を下ろしており、「日本に帰りたくない症候群」にかかっていたため、カナダでの生活を続ける決意をしました。

カナダは自然が豊かで、人々は温かく、非常に居心地の良い場所です。異国の地で、早稲田の絆の下に稲門会の仲間が集い、自由に語り合い、精神的なよりどころとなることができれば、会長としてこの上なくうれしく思います。しかし、年齢を重ねるにつれ、体力の衰えを実感するようになってきました。そろそろ若い世代の感覚で稲門会を率いていただける後進に道を譲りたいと考えています。

津島 晃(1971年商学)

### 会員からのメッセージ

カナダに来て、約1年半になります。私は会社の立ち上げのために来加したため、日本人の知り合いがおらず、生活事情についてもほぼ情報がない状態でした。そんな中で稲門会に参加させていただき、日本食の買える安いスーパーや病院事情など、さまざまな情報を皆さまに共有していただき、非常に助かりました。このように稲門会が世界中にあり、お互いに助け合える風土があることは本当に素晴らしいと思います。

久保 篤(2005年商学)

オスグッドホールロースクールで修士号を取得後、2021年からオンタリオ州弁護士として現地事務所に勤務しています。ロースクールの学生は世界中からの留学生とカナダ人が半々で、大変トロントらしい国際色豊かな環境で勉強できました。現在も移民・難民法関連業務を主に、多様なバックグラウンドのクライアントや同僚と

仕事をしています。多文化に日々触れて考えながら、大人も成長できるところがトロントの魅力の一つです！

吉成絢香(2011年法学、13年法務研)

私は3年前に家族でトロントに移住しました。知り合いのいない未知の土地でしたが、事前に稲門会の皆さんから現地の情報を教えていただき、スムーズに新生活になじむことができました。稲門会のイベントは家族ぐるみで参加させていただいており、世代を超えて交流することができます。現地に親戚のいない私たちにとって、まるで第二の家族のようであり、このような会に参加できることに感謝しています。

福田みのり(2015年社学)

現在、トロント大学に留学している現役学生です。トロント稲門会から食事会などイベントのお誘いをいただいたことが、さまざまな方とお話をする貴重な機会になりました。自分のキャリアを考え始める学生にとって、海外での仕事や生活について教えていただけたととても有意義な時間となり、トロント稲門会の方々に感謝しています。また、トロントでのおすすめの場所や食事なども教えていただき、よりトロントを楽しむことができています。

嶋田優士(社会学2年)

### トロント稲門会について

トロント稲門会は1968年に創設されたと語り継がれており、3年後の2028年に60周年を迎えます。現在の会員数は43人で、移住者、駐在員、留学生、ワーキングホリデーの方々が早稲



2025年2月新年会にて

田の絆の下に集い、交流を深めています。しかし、近年は特に駐在員の減少が顕著であり、当会の運営が懸念されるところです。年間行事としては、新年会、春・秋のハイキングと昼食会、三田会との早慶ゴルフトーナメント、そして合同忘年会を開催しています。不定期のイベントとしては、グルメ会、バーベキュー、会員の歓送迎会などがあります。また、昨年の年初から、SNSを活用した現役学生向けの相談座談会を毎月開催しており、現在ではドイツにもその輪が広がっています。コロナ・パンデミックの約3年間は、校友会事務局からの通達もあり、対面行事を自粛せざるを得ない厳しい時期がありました。その間は、Zoomによるミーティングを数回実施し、会員同士の交流を続けました。今後も、トロント稲門会のさらなる発展を願うばかりです。

津島 晃(1971年商学)

### トロントの魅力

トロントは、北米ではニューヨークやロサンゼルスに次ぐ、シカゴと同規模の大都市です。多くの移民を受け入れており、多民族都市となっています。そのため、日本人を含む外国人に優しい街で、これは生活する上でとても重要な点です。さらに、銃規制が行われていて比較的安全な都市である上、文化施設やエンターテインメントも充実しています。

トロントがあるカナダは、英国連邦の一員です。英国文化の影響を受けており、ガーデニングの質も高いと感じます。住宅街だけでなく、街を歩いていてもすてきな庭を多く見かけるので、思わずカメラを向けたくくなります。

そして、カナダといえば、大自然です。トロント近郊だけでなく、市内でも9月後半から11月ごろまで紅葉が楽しめます。紅葉のスケールは他国では見られない壮大さです。最近、太陽フレアの影響でオーロラも観賞できました。稲門会がある都市でオーロラが見られるのは、トロントだけでしょう。

高松哲生(1993年理工)



(上)トロントアイランドより中心街を望む  
(下)トロントはナイアガラの滝への玄関口でもある

学生さんとのランチ会にて

